NIE実践報告

1．タイトル：☆「新聞」を通じて諸事象を理解する

2．学校名

鹿児島県立加治木工業高等学校

3．実践者名（代表者名）

塩満洋一郎

4．学年

建築科1年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

LHR（学級活動）　40人

6．単元（本時の学習課題）名

生徒会役員選挙学級代表選出

7．目標(狙い)

選出についての注意事項を正確に理解する。生徒会役員選出に関しては、無責任な代表者選出に成りやすい。そこで、新聞の記事を使い、それに対しての諸注意事項を示し、正しい態度で臨む姿勢を養う。

8．評価の視点

自己の責任において、代表者を選出できるか。一人の生徒に偏ることなく、選出するべき生徒がいかに真剣に取り組み、考え行動し、複数の候補者を学級内で出せるか。その中で、いかに一人を真剣に選出できるか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

教育活動全般を通じて、新聞記事を生かした学級経営を展開してきた。その一環としての本時がある。時数配分は明記できないが、「心の教育」の一環としてこのLHRがある。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①朝の読書を通じて、「新聞記事」を読む力を養う。
②高校生とはいかなる時期であるかを、参考資料等を利用して理解させる。
③相互理解の重要性を理解させる。（エンカウンターの実施）
④LHRを実施するにあたり、神戸高校生飛び降り自殺（朝日新聞2007/9/18（火））の記事を学級で読ませる。
⑤「いじめ」について、学級で話し合いを持つ。（エンカウンター的手法を用いる）
⑥生徒会役員代表者選出にあたり、諸注意事項を与える。
⑦②・③・④・⑤を踏まえた上で、選出する人間の責任の重要性を説き、学級代表者の選出を行う。
⑧一部の生徒に票が集中せず、10数人の生徒の名前が挙がり、その中で得票の多い生徒が学級代表となる。
⑨代表になった生徒の責任の重要性を説く一方で、選んだ学級の責任も説く。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「神戸高校生飛び降り自殺」の新聞記事を扱うことにより、無責任な発言・無責任な行動が一部の人間を苦しめることを理解させたかった。学級も成熟していない時期であったため、まず「エンカウンター的手法」を用いることで相互理解を図った。それが、良い方向へ向かい、責任ある行動を生徒それぞれが取ってくれた。

12．成果と課題

「神戸高校生飛び降り自殺」の記事はあくまでも、授業を展開する上でのひとつのアイテムである。「相互理解」が学級経営の大きな課題であると感じていたため、話し合いをさせ、お互いの知りうる事例を班別ながら発表させたりもした。その中で、やはり人として責任ある発言、責任ある行動の重要性を生徒自ら理解させることができたと感じる。今後も、新聞記事を授業や学級活動で大いに利用していきたいと感じている。しかしながら、あくまでも授業内容を充実させるまたは学級活動を広げさせる一つのアイテムとしてである。